

「大陸棚の限界に関する委員会」に提出する 大陸棚の限界（案）の概要

平成 20 年 10 月 31 日
総合海洋政策本部事務局

1. 「海洋法に関する国際連合条約」は、沿岸国の大陸棚を、領土の自然の延長をたどって大陸縁辺部の外縁までの海底及びその下とし、これが沿岸国の領海基線から 200 海里を超えて延びている場合には、当該大陸棚の限界に関する情報を、「大陸棚の限界に関する委員会」（以下「委員会」という。）に提出し、その勧告を受けるとしている。
2. 同条約が規定する大陸棚の限界を明らかにするため、内閣官房の総合調整の下、平成 16 年度から政府一体となって行った大陸棚調査（本年 6 月完了）の成果を取りまとめた。その結果、付図に示す 7 つの海域で、領海基線から 200 海里を超えて大陸棚が延長していると考えられるため、その限界を委員会に提出するものである。
3. これらの海域のうち、オレンジ色で範囲を示す海域については、相対国の延長された大陸棚と重なる可能性があり、我が国と当該国の双方が必要に応じ、協議の上、延長された大陸棚の境界画定を行う必要がある。

○地図の凡例

-  日本の領海基線から 200 海里の線
-  他国の領海基線から 200 海里の線
-  日本の領海基線と他国の領海基線からの等距離中間線
-  大陸棚の限界
-  日本の領海基線
-  日本の領海基線から 200 海里を超える大陸棚の範囲
(相対国の大陸棚と重複する可能性のないもの)
-  日本の領海基線から 200 海里を超える大陸棚の範囲
(相対国の大陸棚と重複する可能性のあるもの)
-  日本の領土

図 1 : 大陸棚の限界

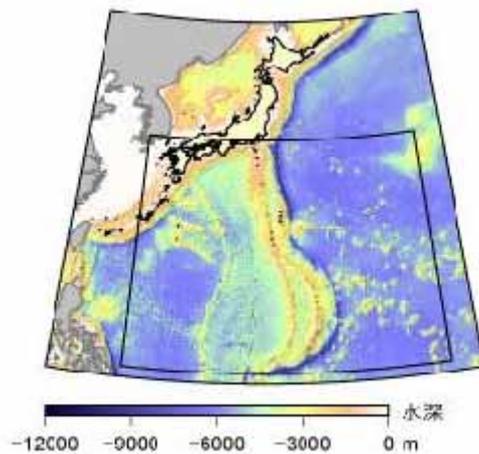
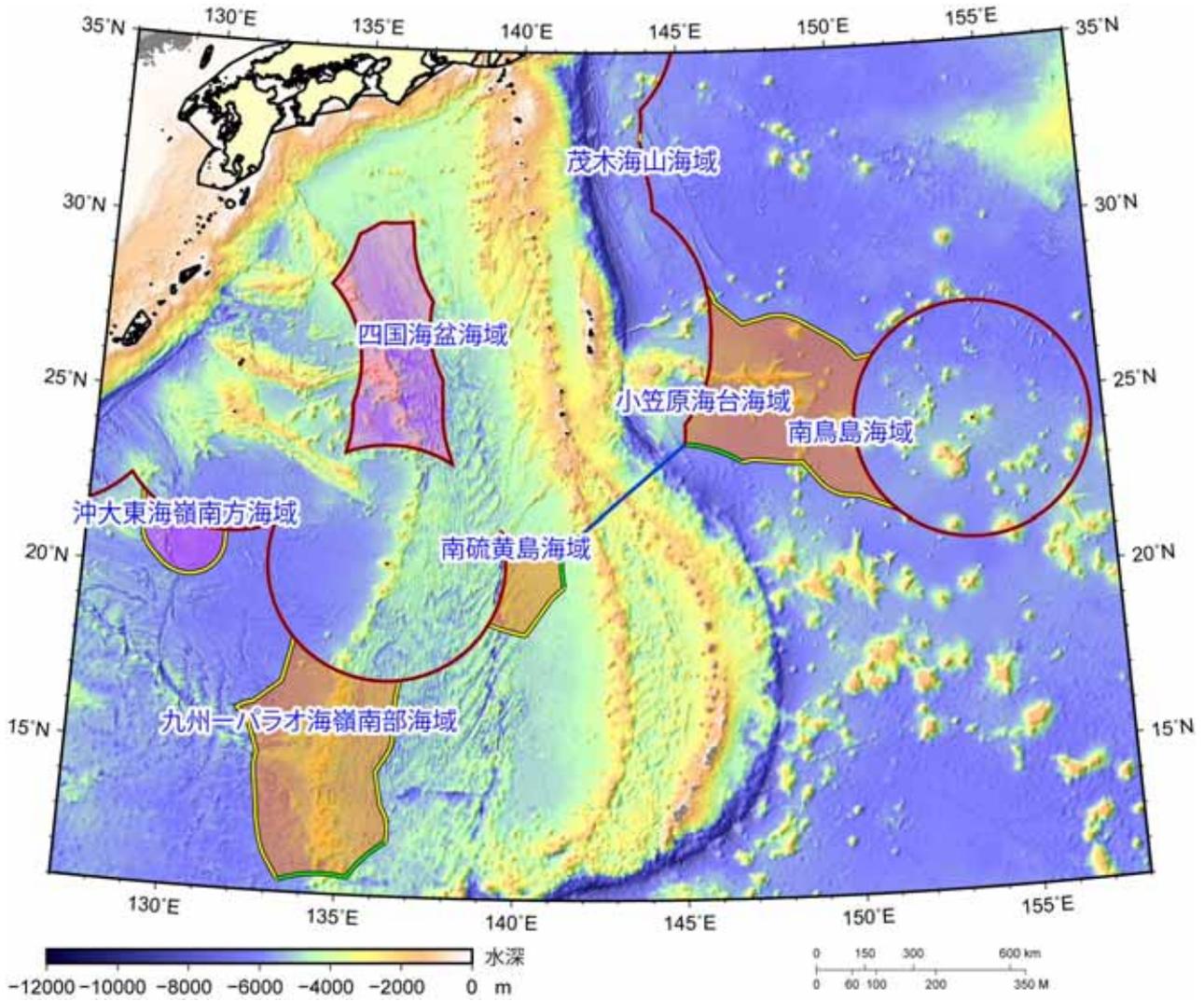


図 2 : 南鳥島海域

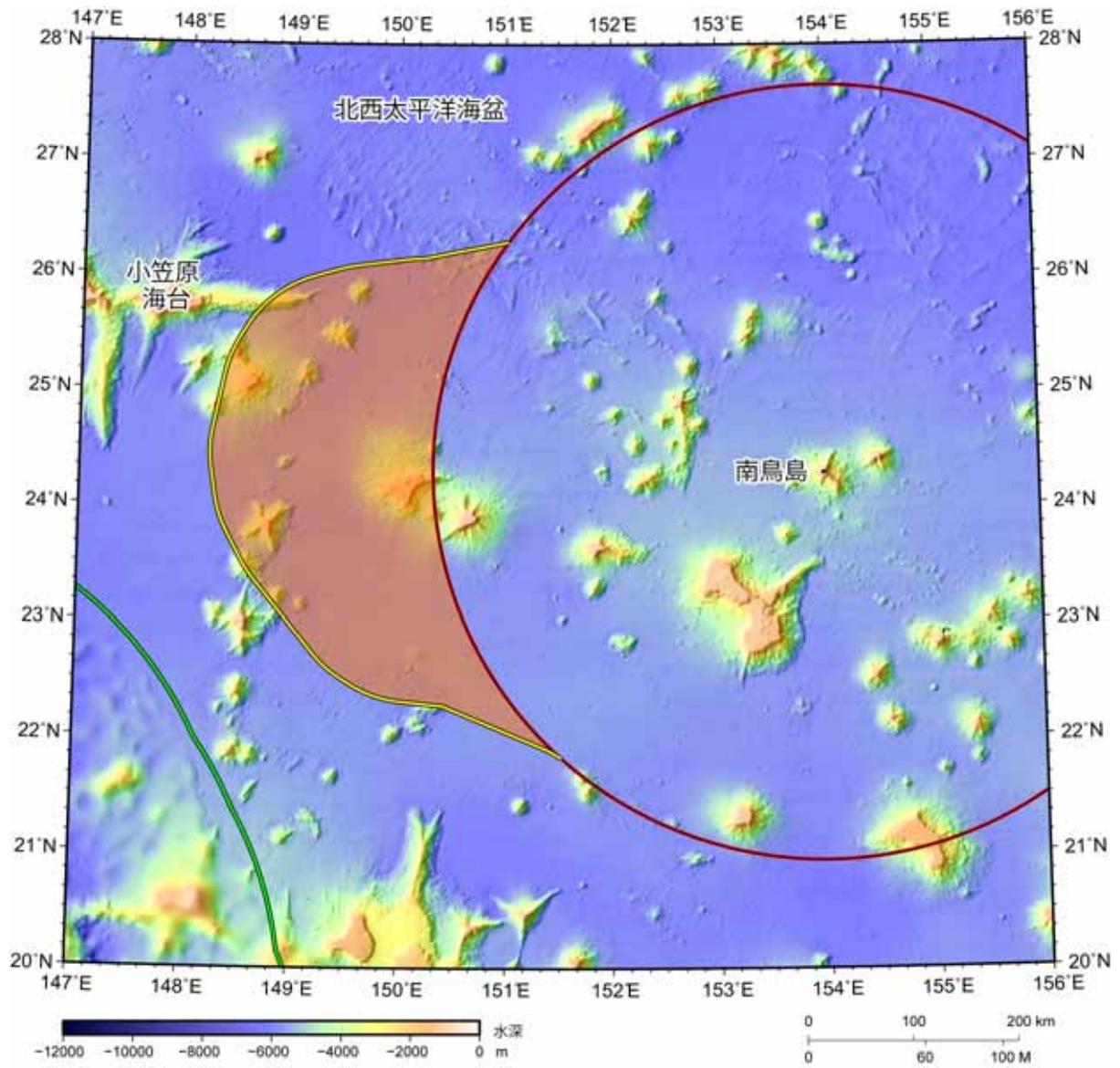


图 3：小笠原海台海域

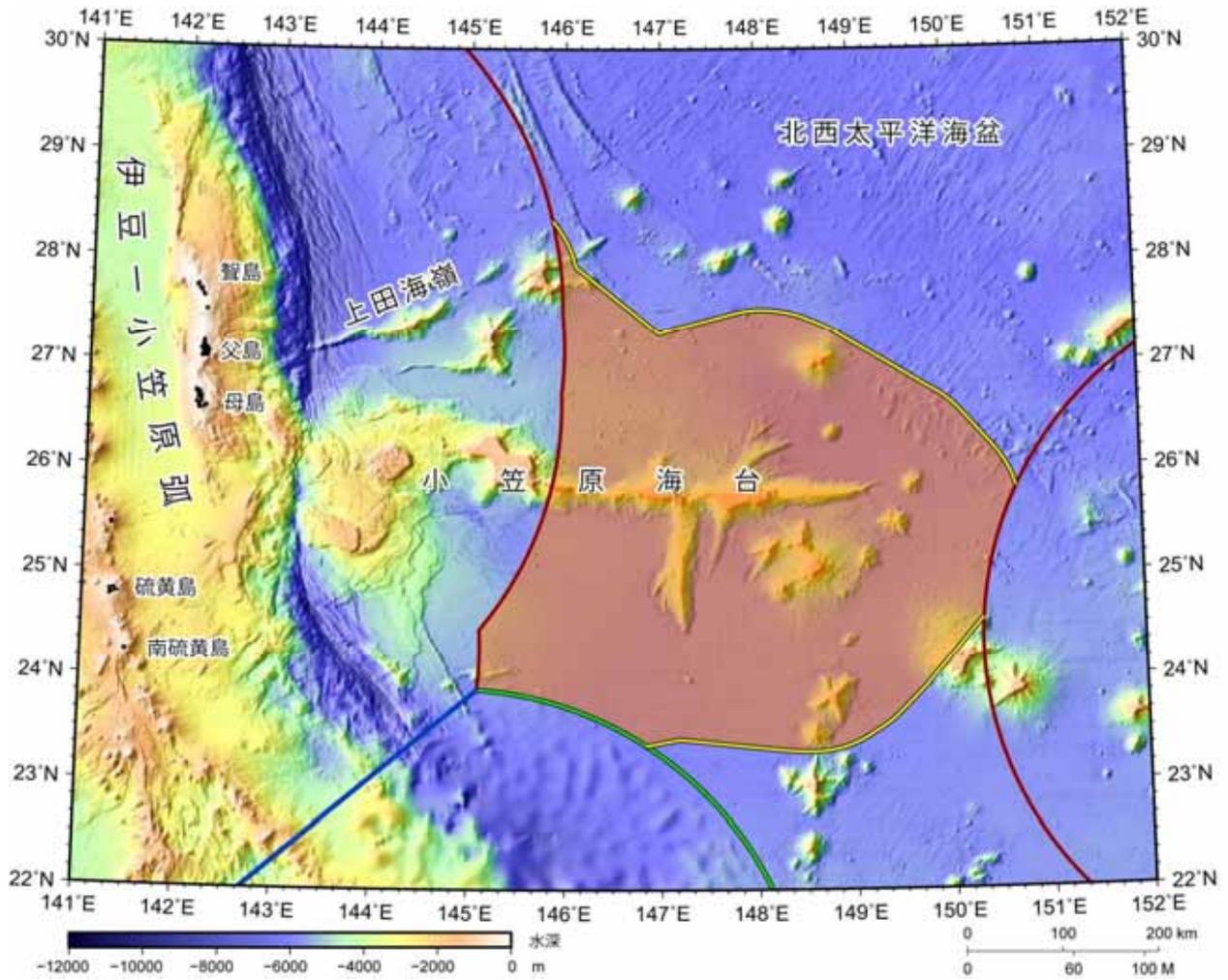
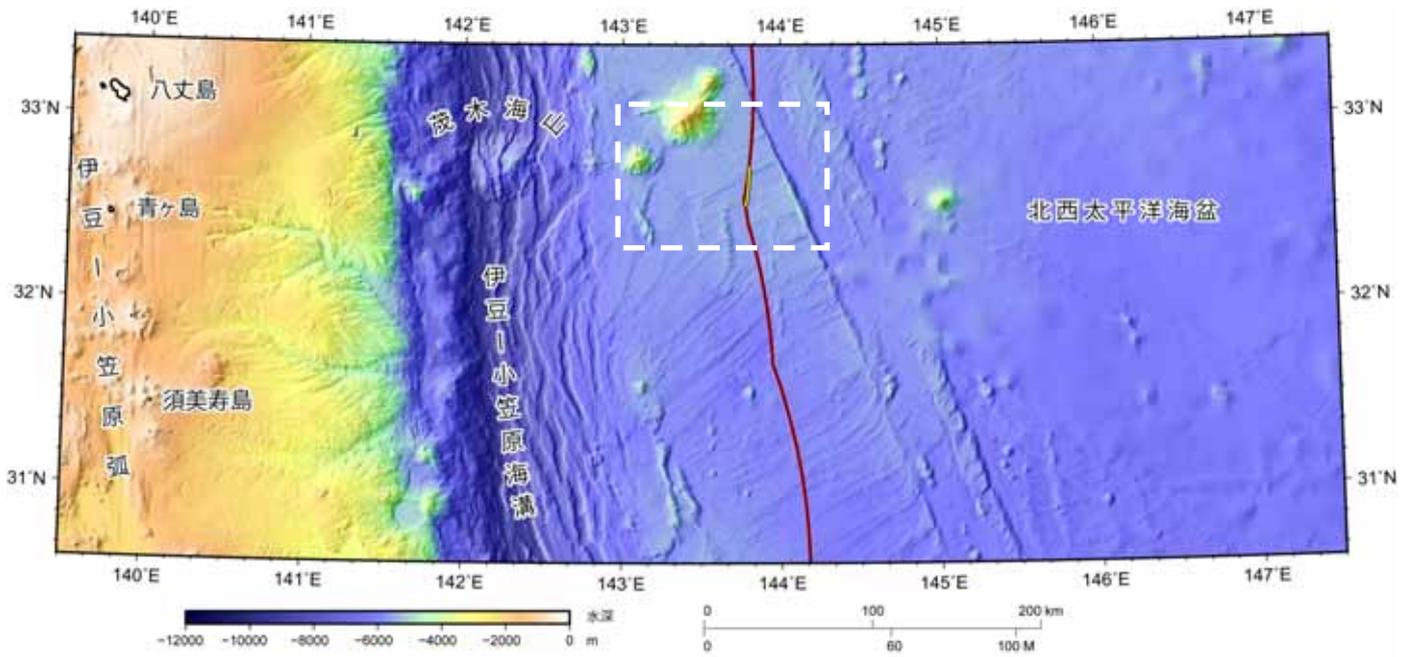


図4：茂木海山海域



上図白枠部分の拡大図

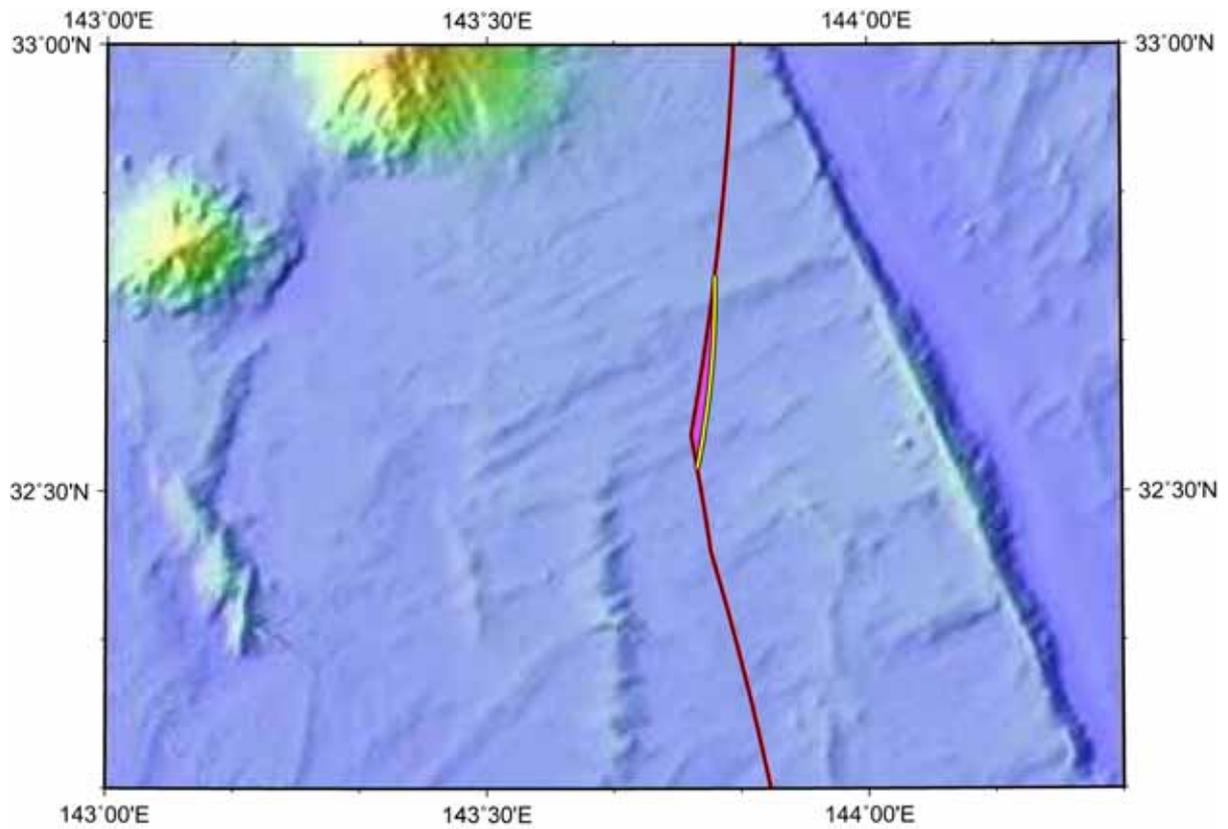


図 5 : 南硫黄島海域

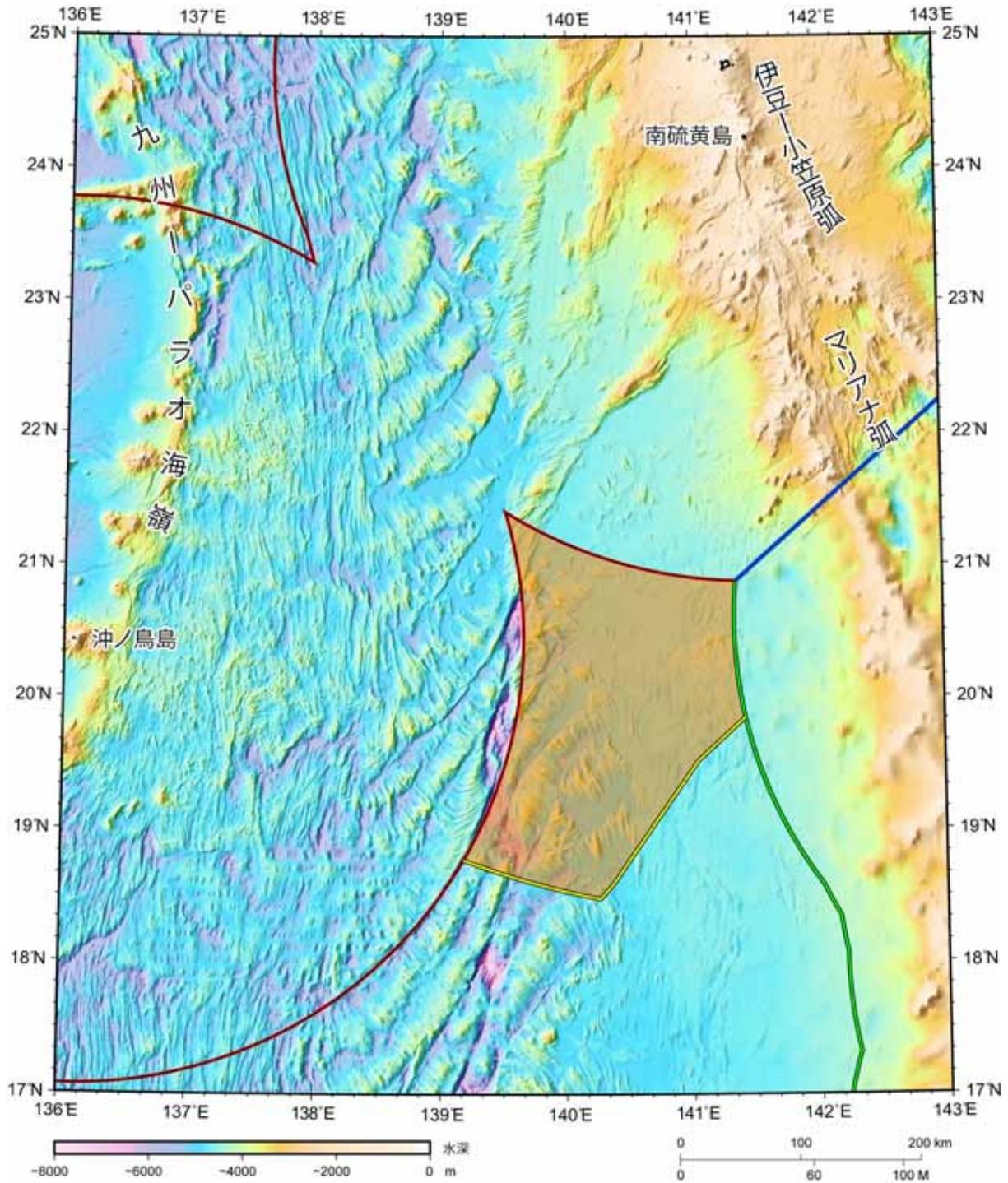


図 6 : 四国海盆海域

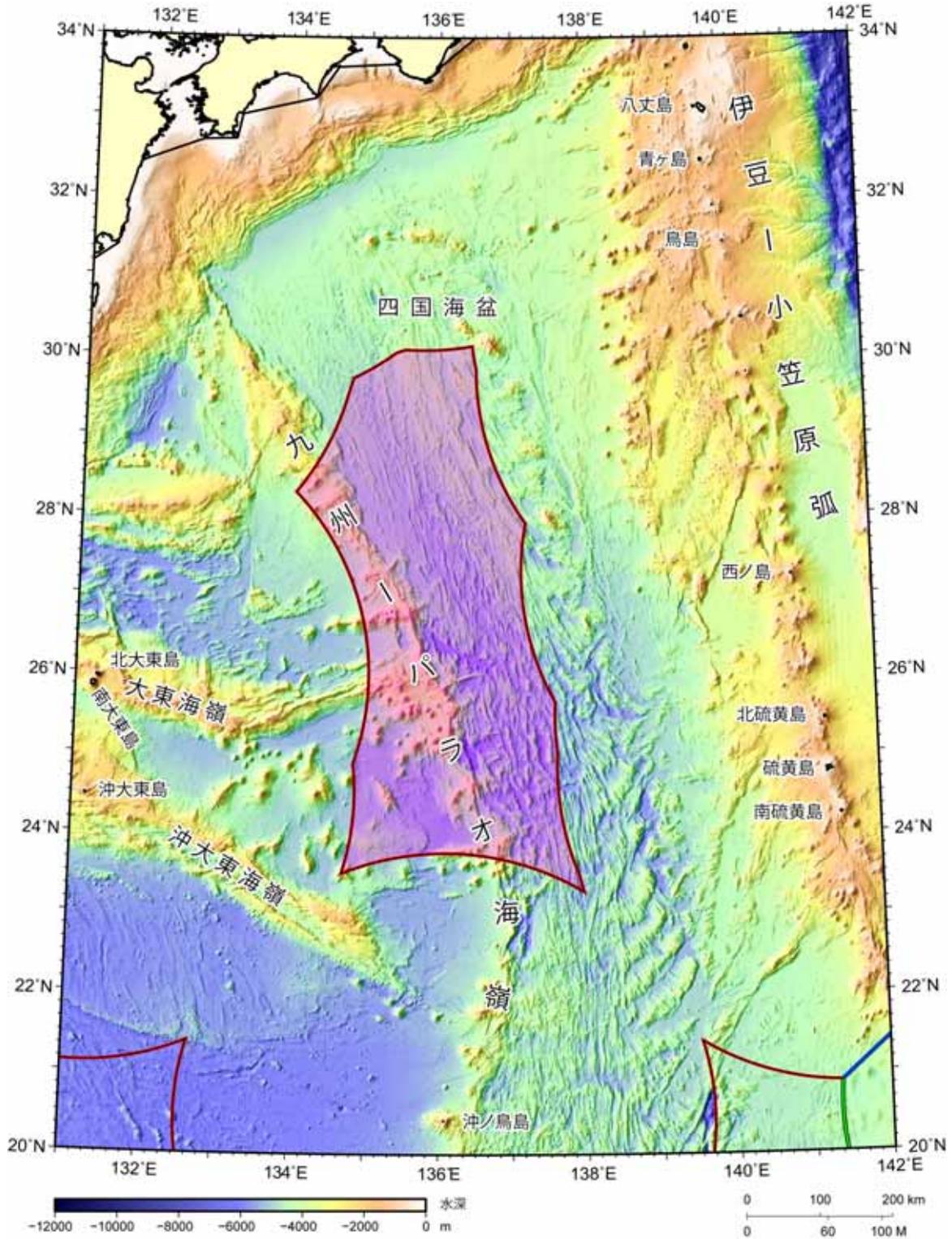


図7：九州ーパラオ海嶺南部海域

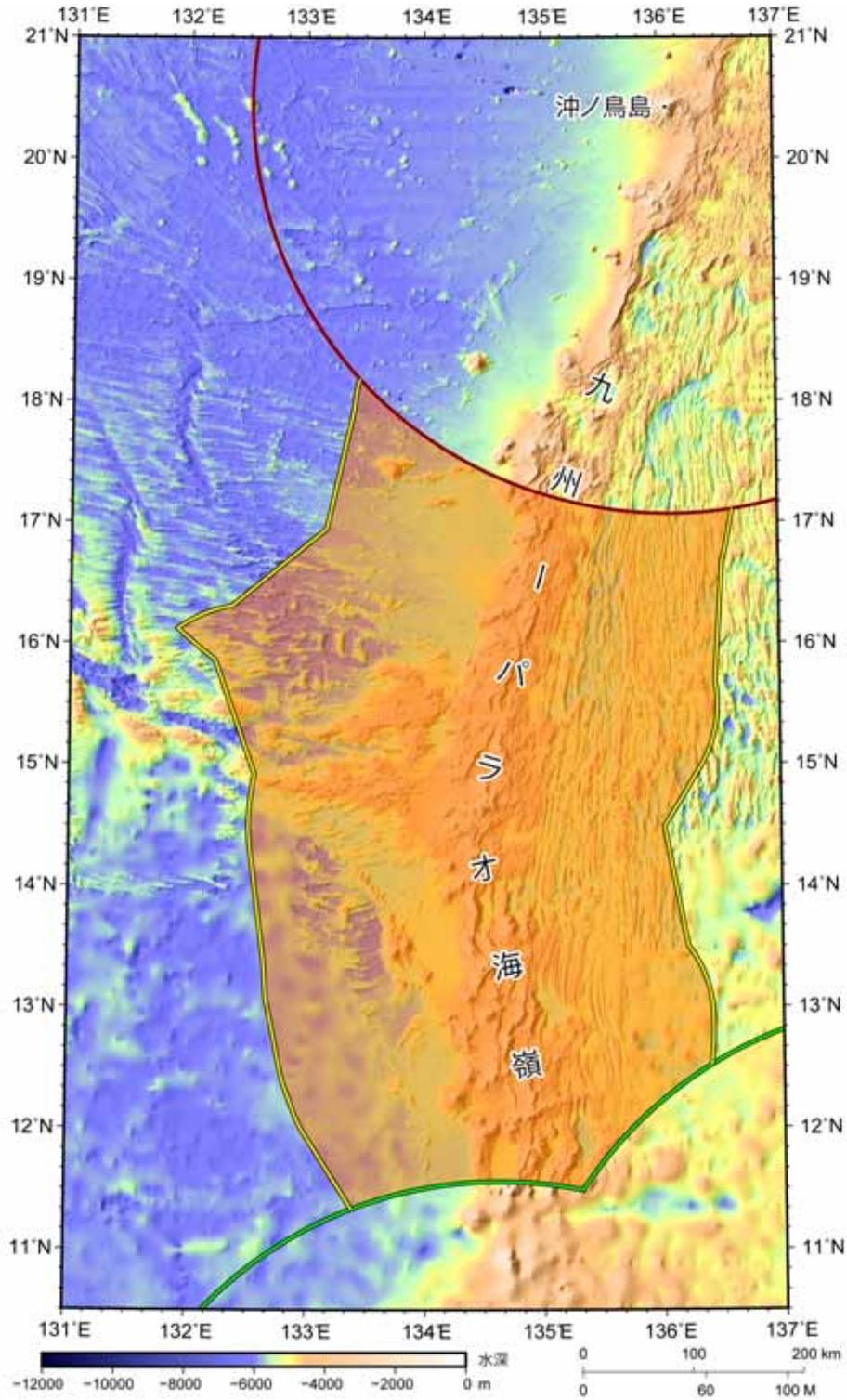


圖 8：沖大東海嶺南方海域

